

歯ぎしりと補綴装置の製作

徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野 講師

鈴木善貴

睡眠中に無意識下に生じる歯ぎしり、いわゆる睡眠時ブラキシズムは覚醒時の最大噛みしめを超える咬合力を発揮し、咀嚼を始めとした機能時には認められないような運動を行っているため、咬耗、補綴装置の破損や脱離、顎関節症など顎口腔系に破壊的影響を与えている。補綴装置はこの顎運動を加味した上で製作されなければ、失敗のリスクが増加し、再製作となってしまふ。また、治療後は適切なナイトガードによって顎口腔系が守られなければ、新たに医原性の歯科疾患を引き起こしてしまうこともある。本講演では、睡眠時ブラキシズムの運動生理学を含めた病態や診断・管理法、そして補綴装置やナイトガード製作時の注意点についてお話ししたい。睡眠時ブラキシズムの実態を知り、補綴装置やナイトガードに付与すべき咬合に関して再考して頂く機会になれば幸いである。

生体に適応するためのナイトガードの製作方法

徳島大学病院歯科技工室 歯科技工士

鴨居浩平

ナイトガードは主に睡眠中のブラキシズムやクレンチングといった不随意運動から、歯や補綴装置、歯周組織、顎関節などを保護するために用いられており、一般的に歯牙を被覆してさえいればいいというイメージがあるかもしれない。しかしながら、ナイトガードを様々な運動を行う顎口腔系に適応させるためには、その効果や副作用を理解しながら顎運動を考慮した設計を歯科医師と共に行っていかなければならない。本講演では製作側の立場から、模型から読み取れる臨床徴候を紹介し、科学的根拠に基づいたナイトガード製作方法について解説する。